

インドネシア・南スラウェシにおける「恥」と「名誉」の概念に関する研究

平成 18 年入学
派遣先国：インドネシア
岩田 剛

キーワード：インドネシア，南スラウェシ，恥，名誉，シリッ (*siri*)

対象とする問題の概要

インドネシアの南スラウェシ地方（スラウェシ島南西半島部）にはおもにブギス人，マカッサル人が居住する。本研究が焦点を当てる「恥」と「名誉」の概念は，かれらの価値規範の根底にある観念とされ，シリッとよばれる。南スラウェシでは一般にシリッが侵害されたら，その「恥」をそそぐために命を賭して「名誉」を回復しなければならないといわれる。また，シリッが最も強く作用するのは婚外交渉をめぐる問題であり，特に駆け落ちは女性側親族のシリッをいたく傷つけるといわれる。ひとたび殺傷事件や駆け落ちが起こると新聞上や人びとの間では「シリッ」がその背景として語られることもある。

研究目的

本研究の目的は，南スラウェシにおける「恥」と「名誉」の概念をめぐる言説の変化と継続の過程を解明することである。「恥」と「名誉」の概念に関する問題は，南スラウェシを対象とする地域研究や人類学研究の分野においては必ず言及される調査項目である。こうした研究においては，男女関係に関わる問題や殺傷事件との関わりに大きな関心が向けられてきた。本研究においては，そうした研究を俯瞰しつつ，「恥」と「名誉」をめぐる言説が作られ，使われる状況を記録することをとおして，伝統かつ静的なものとみなされている地域の価値規範の理解が，各時代の歴史的背景を反映して変容してきたことが明らかになると考えられる。

フィールドワークから得られた知見について

今回のフィールドワークにおいて，以下に挙げる 2 点の成果が得られた。

第 1 に，「恥」と「名誉」の言説に関する資料を収集することができた。滞在期間中，州都マカッサルにおいて地方新聞社 (*Fajar*, *Tribun Timur*, *Berita Kota Makassar*, *Ujungpandang Ekspres*)，南スラウェシ州立図書館，歴史・伝統価値局，ハサヌディン大学図書館，インドネシア国営放送 (TVRI) マカッサル支局，マカッサル語ラジオ放送局 (Gamasi) を訪れ，新聞記事，地方刊行物，図書，映像資料等を探索した。

第 2 に，現地の文化人や研究者などに対してインタビューを実施することができた。ハサヌディン大学では人類学科，地方文学科を訪れ，研究者の方々と知己を得るだけでなく，研究についてアドバイスを仰ぐことができた。また，新聞社では，文化欄を担当する記者の方などから話を伺うことができた。そのほかにも，文化活動を行う NGO や新聞記者組合の事務所を訪れ，地元の新聞記者や学生，若者たちと親交を深めることができた。

そして，これらの資料とインタビューを検討したところ，南スラウェシは現代に至るまで「恥」と「名

誉」をめぐる「対象とする問題の概要」で述べたようなステレオタイプ化された語りが展開されていることがわかった。

今後の展開・反省点

今後の展開としては、今回の文書探索や聞き取り調査によって得られた資料を整理分析していくつもりである。それによって、南スラウェシにおける「恥」と「名誉」の概念をめぐる言説の全体像や、その継続と変化の過程を解明することをめざしたい。

反省点としては、当初予定していた新聞資料の収集が十分に行えなかったことが挙げられる。地方新聞社のひとつが1か月前から休刊となっていたことと、時間の制約が主な理由である。今後の調査では、訪問予定の機関とあらかじめ連絡をとったり、スケジュール管理を工夫するなど、滞在期間中の日程で無駄が出ないように心がけたい。



写真 1：マカッサル・フィールドステーション
(左は事務員のセルフイさん)



写真 2：旧ゴワ王国の王宮（現博物館）



写真 3：新聞社でのインタビューが掲載された新聞記事（Fajar 紙）